

センター情報

変質者が増えています!!

昨日、新聞、テレビで報道されていますように、全国的に子どもを対象とした凶悪な事件が発生しています。これらの事件はいずれも、初めはイタズラが目的であったのが、子どもに騒がれるなどしたために殺害して死体を捨てるというような事件へと発展したものです。

最近、鯖江市内でも小学生を対象にした変質者の事件が多発しています。事例を紹介します。

●四月以降の発生状況

- 四月・・・0件
- 五月・・・四件
- 六月・・・六件

【例1】A子さんは一人で帰宅中、年齢三〇歳の男から「学校が見える所へ案内して欲しい」と言葉巧みに人気のない場所へ誘い込まれ、「学校が見えるかな」と言われて後ろから抱き上げられ身体中を触られた。

【例2】B君は一人で帰宅中、年齢四〇歳の男から「〇〇君」と自分の名前を

★どんなどころで

- 鯖江中校下・・・一件
- 中央中校下・・・二件
- 東陽中校下・・・七件

★どんなどきに

- 二人以上で遊び中
 - …三件
- 二人以上で登下校中
 - …二件
- 一人で下校中・・・五件

★どんなどことを

- 写真を撮る …三件
 - 口実を設けて抱きつく …四件
 - 身体の一部を見せる …三件
- 以上のことから、一人以下校途中にこのような犯罪に合う機会の多いことがわかります。

●未然防止策

○家庭では、「知らない

人の車には乗らない」「後ろをつけれられるなど、危険を感じたら大声を出す」「下校は複数で」などと話し合ってください。

○地域では「子どもの安全を守るために一人でも多く関心を持ちましょう」「地区内で見かけない人・車に注意しましょう」などと話し合い、被害にあう子どもを一人でも少なくしましょう。

(丹南青少年愛護センター)

地域に相談所を設立

鯖江市の各中学校では、今年四月より専門のカウンセラーを配置して相談活動が行われるようになりました。

当会議でも七月から、専門カウンセラーによる相談活動を月一回各公民館で行っています。

青少年のいろいろな悩みや不安について相談にのっていただける機会です。

どこの公民館で相談されても結構ですので、お気軽にご利用下さい。

開設時間は午後五時から午後八時



(鯖江市民会議)

発行
鯖江市教育委員会
鯖江市社会教育委員会
青少年健全育成鯖江市民会議

協力
丹南青少年愛護センター鯖丹支所

はぐみ

家庭教育を考えるシリーズ



14

号

「わが子のどこを認めていますか」

(神明小学校児童)

いのち

問題を起こした子は、実は問題を提起している子なんだというところをえ方をすれば、おのずと問題の所在が見えてくるはずですよ。

最近の一連の出来事から何を学び、どんな反省をしなければならぬか、大きな課題が親や大人社会に、今つきつけられているのではないのでしょうか。

キレる

キレるのち

「キレる」＝頭に来る。
怒る。「逆ギレ」＝叱られる立場の人が怒り出すこと。
「ぶちギレ」＝本当に頭にくること。ついでに、「M」＝まじむかつく。「超M」＝超まじむかつく。「MMC」＝超まじむかつくので殺す。「若者用語の解説」にはそう記述してあります。

ある先生の体験が綴られていました。「ある日、校庭に先生の名前が大きく書かれ、「死ね」と書いてあ

いとも簡単に人を殺したり自殺したりすることが増えています。

ある学校で「人を殺すことはなぜ悪いのですか」と質問した子がいたというのですから、なんとも驚いてしまいます。

昔からのいのちの大切さということについては、ごく自然のうちに、家庭や社会で学び取って身につけたものです。それをことあらためて特別に教育しなければならぬことになったとは悲しい時代になりました。

兵庫県教委では、むごい感情のな子が増えたというので、言葉が人柄や品性を表し、心のあり方を現したものとすれば、今の時代はどんな時代かおおよそ見当がつくというものです。

英国では、子どものしつ

事件があったことから、全国に先駆けて「いのちの教育」を取り入れたと報道されました。

動物の死をとりあげたり、赤ちゃんの世話をさせたり、時には娘を失った親の話を聞くなどしている工夫が聞かれています。

そういえば、家庭で家族の死を看取することはほとんどなくなりまして。最後は病院。そこで見るものは、たくさんの管を入れられ機器に取り巻かれた機能の死でしかないので。人を機能（生きているもの）とみる

つまり、言葉からみると感情的な子が増えたというので、言葉が人柄や品性を表し、心のあり方を現したものとすれば、今の時代はどんな時代かおおよそ見当がつくというものです。

英国では、子どものしつ

日常の会話が少なくなつたこの頃、いい言葉・明るい言葉をかけ合うことが大切ですよ。



られたような気になってくる。

こんな結果でした。

今の子どもが置かれている立場を考えてみますと、親が思っているほどよい子ではない自分。認めてくれる部分が成績以外にないため、スケジュールに従って動くロボットのようになってしまう。常にいい子を演じていなければならぬため、本当の自分をさらけ出すことができず、孤独になりストレスがたまってくる。やがて、そんな自分に腹が立ち爆発する。

こんな構図にあると言えそうです。

ナイフ事件のあと、当事者の子どもは、「その時何が何だかわからなくなった。何をしたのかもわからない」と答えているといいます。

- ①ふだんおさえられてばかりいるから。
- ②自分を強く見せたい。
- ③よい子のものさしで計られると、自分は駄目で認めてもらえない不安。しかし、ナイフを持つと自己防衛的な安心感が生まれる。
- ④ナイフを持つと、なんだか安心する社会が作

問題のウラに隠されてくるもの

キレる ナイフ いのち

滴

先日、臨床心理士の報告事例を読みました。

父親は公務員で物静か、家に居るのか居ないのか分からない、一方、母親は他人の目を気にする性格で、過保護・過干渉の見本のような人でした。

涓

一人っ子の長男

は、トップクラスの成績で、将来外交官になるんだと頑張りつづけていました。ところが、その子が高校二年の二学期から休みがちになり、遂に全休。家族が部屋に近づくと、手当たり次第に本を投げつけ、学校の話でもしよ

ナイフ

人間が感情的になつてくると、つい冷静さを失ってしまいます。

そのひとつの現れが「ナイフ事件」という見方もできるのではないのでしょうか。少年たちはなぜナイフを持つのか、というNHKの調査があります。

- ①ふだんおさえられてばかりいるから。
- ②自分を強く見せたい。
- ③よい子のものさしで計られると、自分は駄目で認めてもらえない不安。しかし、ナイフを持つと自己防衛的な安心感が生まれる。
- ④ナイフを持つと、なんだか安心する社会が作